

四国水族館で学ぶSDGs講座 開催しました！



- 日時 令和5年11月11日(土)9:30~11:30
- 場所 四国水族館(綾歌郡宇多津町)
- 講師 松沢 慶将 氏(四国水族館館長)

11月11日(土)、四国水族館にて、「四国水族館で学ぶSDGs講座」を開催し子どもと保護者あわせて10名が受講しました。松沢館長にお話を伺い、海の生き物の観察を通して”きれいで豊かな海“について考えました。

はじめに、松沢館長よりSDGsについて説明がありました。SDGsとは人類がこの地球で暮らし続けていくため、2030年までに達成すべき世界全体の目標のことで、経済、社会、環境など様々な分野にまたがった課題があり、みんなで取り組まないと達成できないとお話がありました。そして、日本のSDGs達成度ランキングは年々下がり続けており、その中でも特にSDGs目標14“海の豊かさを守ろう”について、日本の海の豊かさが深刻な状況であると説明があり、受講者たちは大変驚いた様子でした。

次に、四国の魅力と四国水族館の特徴について解説していただきました。深い四国山地、自然度の高い淡水、複雑な海岸線、瀬戸内海と太平洋など、四国は水景の多様性に富んでおり、四国水族館を通して四国という土地の豊かさを知って欲しいとお話がありました。そして、松沢館長より3つのミッションが与えられ、受講者は館内の展示を見学しました。



館内でさがそう！海のひみつ

四国水族館では”四国の水景“が展示テーマになっており、瀬戸内海、太平洋、四万十川の清流など様々な水景を体験することができます。水槽の横には魚の紹介文とイラストが手書きされたメッセージボードが設置され、それらを参考にミッションとして課せられた瀬戸内ゾーンと太平洋ゾーンで食べたことのある魚や瀬戸内海ゾーンのどこかに生息するナマコを探しました。受講者たちは食卓に並ぶ魚が普段どのようにして暮らしているか、じっくりと観察していました。



瀬戸内のヌシの景

大きな水槽の底には消波ブロックや岩が置かれ、「主(ぬし)」と呼ぶにふさわしい大きなコブダイやカサゴ、メバル、アイナメなどが消波ブロックの間をゆっくりと気持ちよさそうに泳いでいました。メッセージボードには“コブダイはすべてメスとして生まれ、群れで一番大きな個体が性転換してオスになる”と書かれており、「え〜」と声を上げ、驚いている子どもたちもいました。



海の草原の景

アマモに身を隠すようにして、メナダ、ボラ、メバルなどの稚魚がひっそりと暮らしていました。“海の草原”、“海のゆりかご”とも呼ばれるアマモ場は稚魚の隠れ家になる上に、波をやわらげる働きなどがあるそうです。アマモを初めて見る受講者の方も多く、興味深く観察していました。



見学を終え、レクチャールームに戻りまとめと振り返りを行いました。受講者から食べたことのある生き物としてカワハギ、タコ、アナゴなどたくさん魚介類の名前が挙げられました。そして、アコヤガイからは真珠が取れることなどから、人は海から様々な恵みをもらっていると説明がありました。また、海の栄養が多すぎると赤潮が発生し、逆に少なすぎると魚が育たなくなるなど、海の栄養についてバランスが大切であると解説がありました。最後に、里海づくりのために四国水族館や松沢館長が行っている取り組みを紹介していただき、瀬戸内海がきれいな海であり続けるために日常生活で出来ることを改めて考えるきっかけとなる大変有意義な講座となりました。



受講者からは「いつも見ている瀬戸内海だけど、とても豊かだということが分かった」「ペットボトルやプラスチックをリサイクルし、出来るだけごみを出さないようにしたい」などの感想がありました。